凡 例

本稿及び翻訳資料における地名表記の凡例は以下のとおり。

- (1) テヘラン、タブリーズ、バクーのように、広く定着した表記によって認知されると考えられるものは慣例表記を優先した。「アゼルバイジャン」については(5)を参照。
- (2) イランとアゼルバイジャン共和国におけるその他の地名は基本的に、それぞれペルシア語、アゼルバイジャン語の標準的な表記に即した（ニーシャープール、ホラーサーンなど）。但し、イランの東アーザルバーイジャン州等の地名においてアゼルバイジャン語由来のものは、ペルシア語式に表記せずアゼルバイジャン語表記を優先した（ガラチャマン、ダシュブラグ、スルイェルなど）。
- (3) イランとアゼルバイジャン共和国において現在あるいは歴史的に存在する行政区画や地政学的領域を表記する場合は、ペルシア語、アゼルバイジャン語の公式表記に準拠した（東アーザルバーイジャン州、アルダビール州、ナフチュヴァン自治共和国、アーザーディースターンなど）。
- (4) 文学作品の翻訳においては、上記(1)を除いて、作品言語の表記を優先し、可能な限り原音に近いカナ表記に拠って示すよう努めた。
- (5) 「アゼルバイジャン」の語については、論考本文においては、①現アゼルバイジャン共和国の地理的領域において西暦1918年にアゼルバイジャン民主共和国として独立して以後、ソヴィエト時代とソヴィエト解体後に存在する領域国民国家、②イラン領内北西部においてアゼルバイジャン系住民が多く居住すると考えられる地域に跨る一般の総称、及び①・②の地理的領域における言語的、民族的同一性に言及する概念、として用いている。但し、上記の(1)～(4)に該当する場合には、アゼルバイジャン語表記のAzərbaycan を「アザルバイジャン」、またはペルシア語の آذربایجان / Āzərbayjān / を「アーザルバーイジャン」と表記して、「アゼルバイジャン」に優先させた。